



2013年2月27日

報道関係者各位

慶應義塾大学

博士課程教育リーディングプログラム(オールラウンド型) 「超成熟社会発展のサイエンス」シンポジウム開催

～次代の博士を育成する野心的な取り組みの紹介と今後の方向を討論する～

今ほど大学の本分、高度人材育成に社会の熱い視線が注がれる時代はありません。世界でも例のないほど急速に進む少子高齢化の中で、専門分野で能力を伸ばすとともに、複雑な融合課題に接し、その取り組みの鳥瞰図を描き発信できる高度博士人材の育成と輩出は、超成熟社会発展の要です。

慶應義塾大学は2011年度「博士課程教育リーディングプログラム(オールラウンド型)」に採択され(同年度の採択は京都大学、大阪大学、慶應義塾大学の3大学のみ)2012年4月に同リーディングプログラムを開設し、大学院修士・後期博士課程5年間のカリキュラムの下で、高度博士人材育成を開始しました。本プログラムに選抜された10名の学生たちは、「水飲み場」(注)という新しいファカルティ環境の中で着実に成長しつつあります。

このたび開催するシンポジウムでは、野心的ともいえる本プログラムの仕組みと機能や、この1年間の活動内容を紹介するとともに、今後の活動方針に資するため、産業界からの基調講演及び産官学によるパネル討論を行います。本テーマに関心を持つ皆様方と一緒に、次代の博士育成における課題やその実践の在り方について共有する場になれば幸いです。

本イベントの告知とシンポジウムへのご取材をお願いいたしたく、ご案内申し上げます。

1. 開催概要

- (1) 日時：2013年3月14日(木) 14時～17時(13時30分開場)
- (2) 場所：慶應義塾大学 三田キャンパス 東館8階ホール
<http://www.keio.ac.jp/ja/access/mita.html>
 (JR京浜東北線・山手線 田町駅下車 徒歩8分、都営地下鉄浅草線・三田線 三田駅下車 徒歩7分、都営地下鉄大江戸線 赤羽橋駅下車 徒歩8分)
- (3) 主催：慶應義塾大学「超成熟社会発展のサイエンス」リーディング大学院プログラム委員会
- (4) 対象：どなたでもご参加いただけます。(入場無料)
- (5) 申込：事前に Web 参加登録フォーム(下記ページ参照)より 氏名 所属 役職 連絡先(住所・電話番号・FAX番号・メールアドレス)を記載の上お申し込み下さい。
https://www.lua3.keio.ac.jp/app-def/S-102/wordpress/?page_id=1042
 報道関係者：m-koho@adst.keio.ac.jp 報道関係者は、3/11(月)までにお申込みください。

2. プログラム

- | | |
|---------------|---|
| 13:30 | 開 場 |
| 14:00 - 14:10 | 開会挨拶
長谷山 彰(プログラム責任者・常任理事) |
| 14:10 - 14:20 | 来賓挨拶
池田 貴城 氏(文部科学省高等教育局大学振興課長) |
| 14:20 - 14:40 | 本プログラムの概要(仕様と機能)
大西 公平(プログラムコーディネーター・理工学研究科教授) |
| 14:40 - 15:10 | 本プログラムの今年度の活動実績
神成 文彦(プログラム委員・理工学研究科教授) |
| 15:10 - 15:20 | 休憩(10分) |
| 15:20 - 15:55 | 基調講演
山下 徹 氏(株式会社NTT データ取締役相談役) |

15:55 - 16:55 パネル討論

- 超成熟社会を先導する新たな博士を育成する -

モデレーター 真壁 利明 (ボード会議議長・常任理事)

パネリスト 葛目 薫 氏 (丸紅株式会社執行役員・人事部長)

三浦 淳 氏 (川崎市副市長)

駒村 康平 (プログラム委員・経済学研究科教授)

山中 直明 (プログラム委員・理工学研究科教授)

徳田 英幸 (プログラム委員・政策・メディア研究科教授)

16:55 17:00 閉会挨拶

清家 篤 (塾長)

3. 「超成熟社会発展のサイエンス」プログラムの概要と 2012 年度の主な取り組み

【プログラム概要】

本プログラムは、着実に忍び寄る超成熟社会や産業界・官界が求める、次代の博士を育成することを目的としています。そのような博士人材の資質は、専門性と幅広い知識の双方を併せ持つことが必要であると多くの有識者が指摘しています。問題は、どのようにして実現するかです。

慶應義塾大学は、本プログラム修了後に、今後の超成熟社会において、産業界・官界・国際機関等で活躍できる次代の博士を育成するため、野心的と言える取り組みを開始しました。本プログラムは、**修士(主専攻)・修士(副専攻)・博士(主専攻)の5年間のカリキュラム M/M/D**を基本的な枠組みとし、その中で、骨太の専門性を基に、文理融合や俯瞰力の養成を実現します。

【2012 年度の取り組み】

初年度となる 2012 年度は、学内の 13 の研究科から 10 名(今後は毎年 20 名程度)の学生を選抜し、RA (Research Assistant) として雇用しました。選抜された学生にとっては、従来の主専攻の修士の履修に加え、本プログラムの多様なメニューが上乘せされたので、大変忙しくなり厳しくもりましたが、経済的な支援のもと元気に乗り越えてきました。

文系・理系を含め、多様な分野の研究科から集まった学生達は、多様な価値観を持つ理工・医療・政策・社会科学分野の教授陣が集うファカルティ環境の下で、それぞれの専門の上に文理融合を実現していきます。さらに、教育コンソーシアムに参加する多様な業界の産や官のメンター(部長クラス)が特任教員として毎週集い、指導する中で「水飲み場」(注)が形成され、社会の生の課題が学生に提供されました。

学生達は、学期ごとに設けられたプログレスミーティング、RA 発表会及びサマーキャンプ、ウィンターキャンプという発表の場で、主専攻の進捗やメンター指導の成果を、英語で発表し、互いに討論しました。そこには、主専攻の指導教員やメンター(非常勤特任教員)、本プログラム関係の専任教員や特任教員等、多様なキャリアパスを有した専門家が参加し、学生に対して多角的なアドバイスを与えました。また、毎週のように外部講師によるキャリアパス講演を開催して学生の目を外に開かせました。

国際展開の面では、この 2 月~3 月にかけて、10 名全員が海外インターンに出発し始めました。異国での就労経験の中で、実践英会話のスキルアップは言うまでもなく、習慣・文化・制度の違いに気づき、国際性を身に付けることが狙いです。2 月 16 日には、日吉キャンパス西別館の本プログラムの拠点と、米国のサンフランシスコ(インターン中の RA が参加)と、テキサス州オースティン(米国籍特任教員が参加)の 3 拠点を結んで成果発表会を開催しました(参考資料参照)。このように、グローバルな発表会が開催可能なクラウドコンピューティングシステムを備えていることも、本プログラムの大きな特徴の一つです。今後は、海外の大学や機関から参加する副指導教員体制の構築による文理融合型教育に拡大できればと考えています。

(注)「水飲み場」: サバナのオアシスにさまざまな動物が集まるように、多様な分野の教授陣や産官の人材、主専攻を異にする RA が集うファカルティ環境。

本リリースは文部科学省記者会、科学記者会、各社社会部等に送信させていただいております。

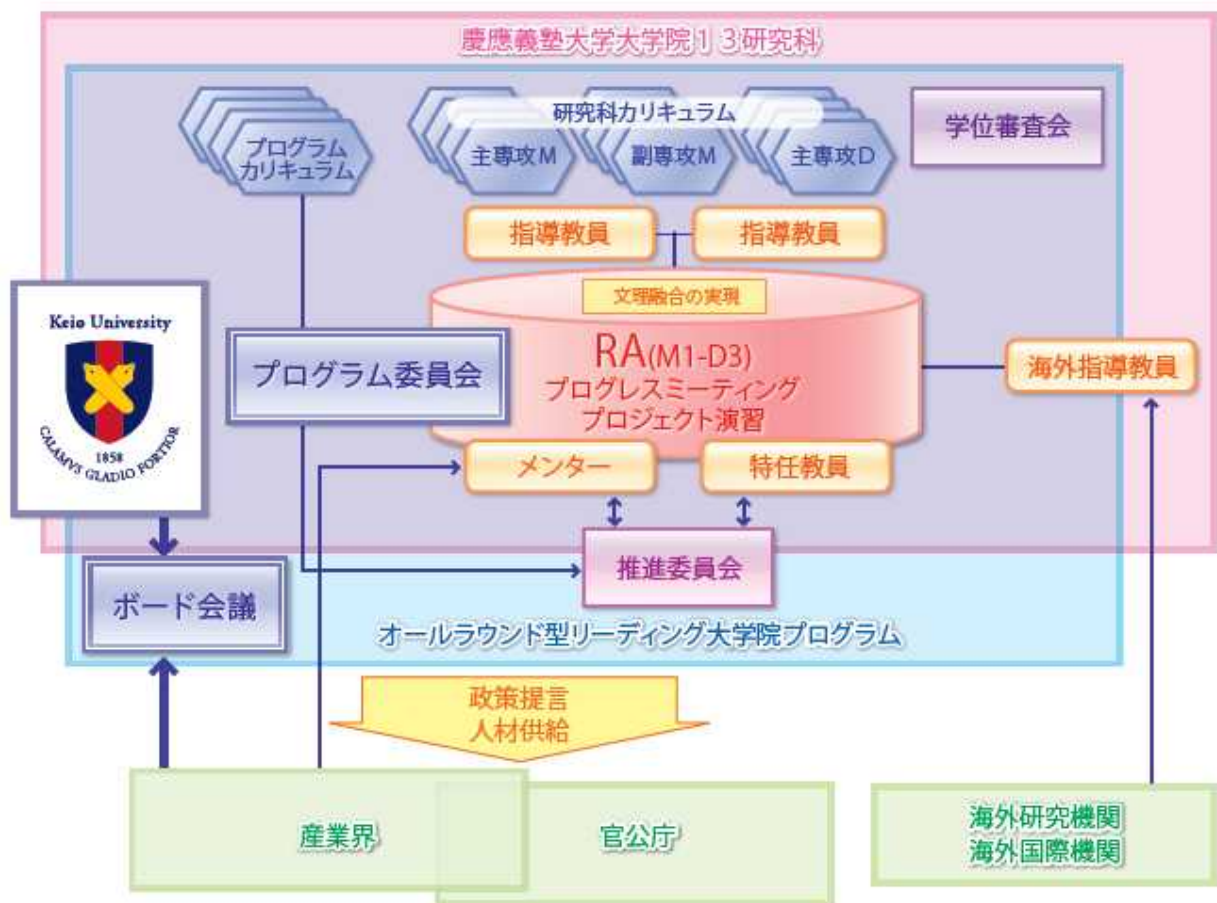
本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室(中島、久保) e-mail:m-koho@adst.keio.ac.jp

TEL:03-5427-1541 FAX:03-5441-7640

<http://www.keio.ac.jp/>

参 考 資 料



(図 1) 推進体制図



(図 2) 日吉 - サンフランシスコ - オースチンを結んだ成果発表会